

プロジェクト スマート林業技術等を活用した林業のデジタルシフト

目標

- ・スマート林業コア技能者数 R4：0名 → R7：30名
- ・素材生産量 H29～R3平均：109万m³ → R10：130万m³
- ・製材用素材入荷量 R5：161千m³ → R10：182千m³
- ・林内路網延長 R4：1,291km → R10：1,315km

挑戦する内容

- ・スマート林業技術を現場で実践・指導できる技能者の育成
- ・各種技術の現場レベルにおける精度やコスト等の森林クラウドシステムを活用した実証・普及
- ・原木需給マッチングによる原木取引の安定化・効率化
- ・航空レーザ計測により得られる地理情報を活用した路網整備計画等の作成促進

関係者の声
＝対話

- ・人手不足のため効率良く森林の調査をしたい（林業事業者）
- ・適正価格の原木の安定入手が難しい（製材業者）
- ・生産調整ができていない（林業事業者）

役割分担

- ・市町村：課題提示、各種技術の習得
- ・林業事業者：課題提示、現場の提供、各種技術の習得
- ・製材業者：ICTによる各種データの活用
- ・産技センター：技術の実証、情報提供、助言
- ・県：情報提供

変革後の姿

- ・コア技能者が一般技能者へ技術を指導することにより、スマート林業技術が地域へ普及・定着
- ・生産性が高まることで素材生産量が増大し、所得が向上

令和7年度計画

挑戦する内容

- 1 スマート林業技術を現場で実践・指導できる技能者の育成
 - ・スマート林業技術活用研修会の開催（3地域コンソーシアム各2回）
- 2 各種技術の現場レベルにおける精度やコスト等の森林クラウドシステムを活用した実証・普及
 - ・多様な現場の状況に応じた資源解析の技術（手法）を構築するため、ドローン写真、ドローンレーザ、地上レーザによる森林資源解析の実証試験の実施（対象森林：下北地域のひば民有林）
- 3 原木需給マッチングによる原木取引の安定化・効率化
 - ・デジタル伝票ツールの普及
- 4 航空レーザ計測により得られる地理情報を活用した路網整備計画等の作成促進
 - ・航空レーザ計測実施地における森林資源解析の実施（田子町：約95百ha）
 - ・市町村独自の航空レーザ計測及び森林資源解析の実施を支援
 - ・森林資源情報を活用した効率的な路網線形の検討
 - ・森林クラウドシステムの適正な運用、操作研修会の開催



ICTハーバスタ研修会



森林クラウドシステムの検討

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・森林クラウドシステム研修会での意見交換（適宜）
- ・各地域スマート林業コンソーシアム構成員との意見交換（適宜）
- ・スマート林業技術活用研修会での意見交換（3地域コンソーシアム各2回）